

•Tackle Guide

ナギがいい日は短い竿でも問題はないが、外海は2メートル前後のウネリの中で釣るときもある。そのため、ウネリを吸収しやすい全長2.7メートル以上の竿を選びたい。勤栄丸では沖の水深50メートル前後、灘の水深15メートル前後のポイントを使う人が多かった。手巻きリールを使う場合は80号オモリに合わせて中型以上のサイズを選ぶといい。

ダチを取り直し、常にオモリを底から50センチ〜1メートルにキープしてアタリを待つ。沖のポイントには、スパンカーを張って糸を立てる流し方法だ。船は潮に乗ってポイントの上を流す。道糸が真つすぐ立つように操船されるので、タナを正確に取りやすいメリットがある流し方だ。流している時間は短く、ポイントを外れると船長はまめに船を流し変える。流し変えるたびに船中ポツポツと竿が曲がった。上がるヒラメの型はまずまずで、21キロのヒラメを含み3枚が取り込まれる。私もやや遅れて竿を出す。さっそくアタリがきたが、食い込まずにイワシが歯形をつけられて上がってきた。船でもバラシが目立つ。

浅場はアタリ活発

小移動しながらいくつかの根を探したが、普段よりアタリが少ないという。やがて風が強まりウネリも高くなってきた。船長は灘ポイントへの移動を告げ、50分ほど走る。灘のポイントは、太東岬が

底潮が悪いので食い込みが悪いと船長。マハタやチカメキントキなど沖のポイントらしい外道が交じるが、サメも食ってくるのは底潮が効いてないのだろう。

近くに見える水深17メートルの砂地だ。大原港の船も何隻か見える。ここではスパンカーをたたんで、横流しに切り替える。右舷と左舷、交互に潮先になるように操船すると、釣り座によるアタリの多少が軽減され皆に平均にアタリがくるようになる。また横流しだと潮が動かなくても風があれば広くポイントを探れる利点がある。



▲外房のヒラメは今シーズンも調子だ

旬の沖釣りをエンジョイ!

今がチャンス! これから楽しみ!

釣りどきレポート

Best Season Report

日による気温の差が激しい今日このごろ、釣行時のウェア選びも悩ましい季節。日中は暑くなくても早朝は肌寒いので1枚多めに着ていくようにしましょう。

外房太東港発↓太東沖

外房ヒラメの好調を確認 11月以降は良型に期待!

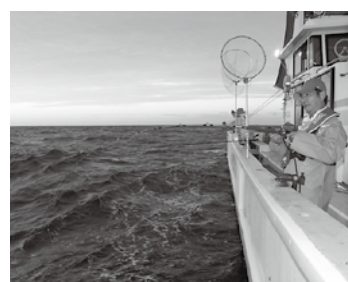
10月1日に全面解禁になった外房エリアのヒラメ釣り。秋の好天に恵まれ、解禁日から好調の報が聞こえている今シーズンの模様を確認しよう。と10月7日に外房太東港の勤栄丸を訪れた。

まずは深場からスタート

集合時間は4時半、1時間ほど前に港に着いた。太東港は隣の大原港とは対照的に静かな港で、船の数も少なくひっそりとしている。

その中で1隻、すでに灯りが灯っている船が勤栄丸だった。渡辺秀明船長に会いさつすると、今日は沖のポイントから始めるという。今年は何年よりも水温が高く、深場のポイントのほうが良型ヒラメの模様がいいらしい。

若船長の渡辺真澄船長がイワシを積み込み、出船準備が整ったところで釣り座を決め



▲オモリは80号で統一した

るくじ引きが行われた。取材で乗る私は余った右舷の席に入れてもらう。

船は追い風を受けて沖へと向かった。北西の風向きで海はいいナギだが、山から吹いてくる風は10月とはいえ肌寒く感じる。

小1時間ほど走って太東沖のポイントに到着。水深は42メートル。オモリは80号で統一する。「着底したらすぐに底を切ってアタリを待つ」とアナウ

▼今後は浅場でも良型に期待



今年はまだ水温が高く、この日は25度もあった。ヒラメのエサとなる小魚が小さいらしく、それを追っているヒラメもまだ小型が多いとのこと。私にも連続してアタリがあるが、いずれも掛けられない。活性が悪いのか、イワシを飲

大東沖の浅場ポイントはアタリが多い。最初のひと流しで6枚が上がった。ただし、沖のポイントに比べると型が小ぶりだ。

み込んでくれない。そこで仕掛けを替えて対応することに。普段は孫バリを付けない1本バリ仕掛けを使っているが、ソゲが多いとこの仕掛けでは食い込まずに放されてしまうことが多いため、孫バリを付けることにした。

さらに、水温が高くイワシがすぐに弱るので、泳ぎをよくするために孫バリは刺さずに遊ばせておく。

アタリがあったら軽く聞くように竿を持ち上げ、重みがあればそこで合わせてやる。重みがなければ竿先を戻して続くアタリを待つ。

この釣り方で2枚のヒラメを釣り上げることができた。しかしながらアタリは8回もあったので、打率にすると2割5分の低率だ。

アタリがあっても掛けられない、じれったいヒラメ釣りと化した。これはこれで面白い釣りだった。沖揚りの時間を迎え、釣果は一人2〜5枚、乗船者全員が型を見た。沖のポイントも灘のポイントも、潮の流れはそれほど

●船宿information

外房太東港 勤栄丸  
☎0470-87-2296  
(詳細は巻末の情報欄参照)

▶料金=ヒラメ乗合一人1万3000円(エサ、氷、軽食付き)  
▶備考=予約乗合、4時半集合。貸し道具あり。  
午後マダイ(一つテンヤ、タイラバ)乗合へも出船。仕立も受付

渡辺 秀明船長(右)と真澄船長

なかつたにもかかわらず数が出ていたので、ヒラメの魚影が濃いのは間違いないさそうだ。勤栄丸では、沖の深場と灘の浅場を状況によって攻め分ける。港前の太東沖から大原沖とポイントは広い。これから冬にかけて徐々に水温が下がれば浅場にイワシが回遊し、沖の良型ヒラメも浅場にやってくる。

とくに太東沖の浅場の砂地18メートル前後は、例年冬になるとイワシの大きな群れがきて良型ヒラメが好調に釣れる場所だ。11月以降の釣況には注目したい。

知得! Tips and Tricks  
船宿仕掛けは若船長の手作り品

勤栄丸で売っている仕掛けは渡辺真澄船長の手作り品で、孫バリにはトレブルフックを使って掛かりをよくしてある。このせいか、乗船客のほとんどが孫バリにトレブルフックを使っていた。ヒラメ釣りが初めての人は船長お手製の船宿仕掛けを使ってみよう。

▲迷ったら船宿仕掛けが一番